

仮想将来世代との共創による 未来ビジョン形成と地域実践

大阪大学環境イノベーションデザインセンター
原 圭史郎

2015年12月13日
一橋政策フォーラム

1

なぜフューチャーデザインか？

- 地球温暖化、財政・・・これらの課題は、どこかの世代が負担・譲歩をしなければ解決できない。
→ **現状では将来世代のために譲歩する意思決定は困難**
- “市場” “間接民主制” “人の近視性・楽観性”
→ **「将来世代の資源を惜しみなく奪う」**
- 既存の参加型ビジョンづくりでは、**現在の課題・満たされていないニーズ**に視点が行きがち(例:吹田・矢巾での実践例)



- ✓ 過去世代から将来世代につながる、持続可能な社会構築に資する**意思決定のための新しい方法論と仕組み**が必要！
- ✓ どのように、**将来世代の考え**を現代に取り込む？

2

フューチャーデザイン

将来世代を代弁し、ビジョン設計や意思決定に臨む**役割**を担う**仮想将来世代**を現代に創出。現代との交渉によって、世代間のコンフリクトをのり超えた**意思決定**を導く。



過去・現代の変遷の評価

共創・交渉・合意形成



- ・世代間コンフリクトの克服
- ・将来世代に資する政策立案・社会づくり

3

「仮想将来世代」は機能するのか？

- 被験者の参加による経済実験(Kamijo et., al in prep)
- 理論+実験 ドメイン投票(Kamijo, Hizen and Saijo, 2014)
- 全国オンラインアンケート調査 (Hara et al., in prep)
- 住民参加型の実践(岩手県矢巾町、大阪府吹田市、他・・・)
 - 2060年矢巾ビジョン:「地方創生」プラン
 - 2050年吹田の環境まちづくり

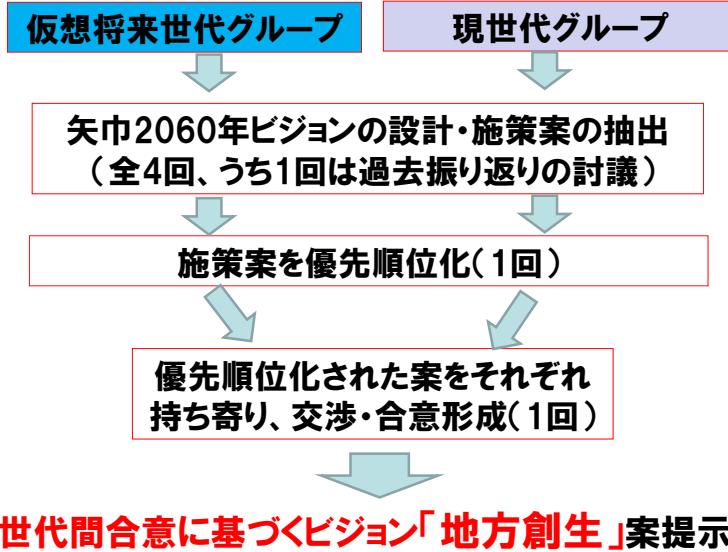


複数の手法(経済実験、討議実践、全国アンケート調査等)に基づく仮想将来世代創出の意義と効果の実証

⇔ **近視性の克服、自己利益からの離脱(Detachment)**

4

矢巾町フューチャーデザイン討議(2015年度)



5

フューチャーデザイン討議の条件設定 (矢巾町のケース)

- 仮想将来世代グループ(A, B)、現世代グループ(C, D)に分かれ、別の部屋で討議
- 各グループとも20代～80代の男女で構成(バランスを考慮)
- 討議前、仮想将来世代グループには次の説明がなされる:

『このグループは2060年の人々になりきって、その世代の利益を代弁し、2060年の人々の立場から議論をしてください。自分のことではなく、将来世代と社会全体のことを考えて議論するという役割が与えられています。』

→ 将来世代の「キャップ」をかぶってもらう

シンボリック相互作用論『人はものが自分に対して持つ意味を踏まえて行動する、その意味は仲間と一緒に参加する行為から生じる』(E・ゴッフマン) ⁶



矢巾フューチャーデザイン討議の様子

現世代グループの一つ

2050年の矢巾町

現状の課題・満たされないニーズから議論がスタート

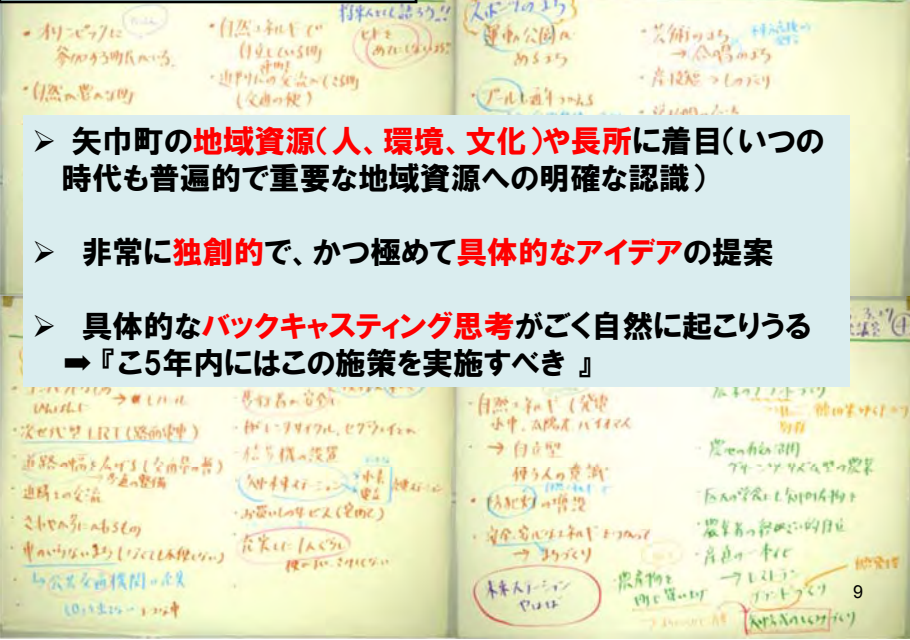
- ✓ 子供の遊び場がない
- ✓ 待機児童の問題や、老人介護施設の不足など
- ✓ 地域コミュニティの劣化・ひとのつながりに対する課題認識

これらの課題解決にもつながる施設誘致やソフト基盤の充実を柱としたビジョンづくりを提起

施設誘致
つながり
交流ソフト

8

仮想将来世代グループの一つ

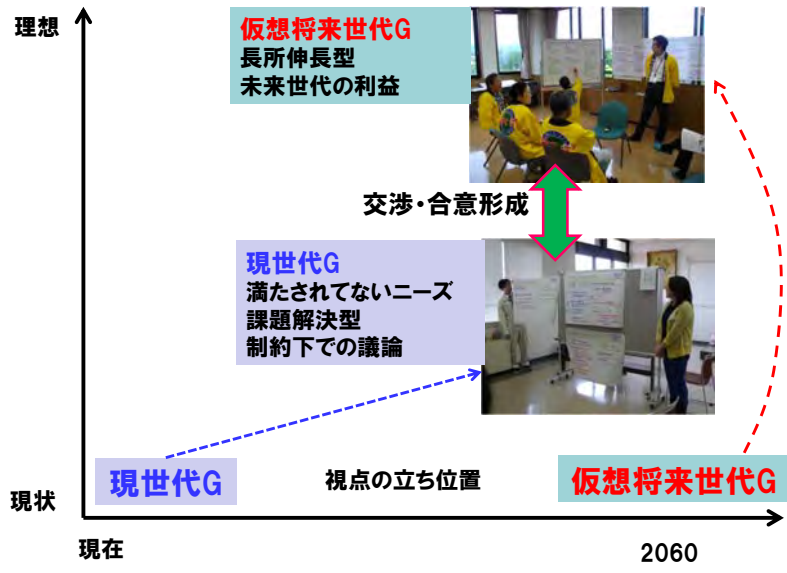


- 矢巾町の**地域資源(人、環境、文化)**や**長所**に着目(いつの時代も普遍的で重要な地域資源への明確な認識)
- 非常に**独創的**で、かつ極めて**具体的なアイデア**の提案
- 具体的な**バックカスティング思考**がごく自然に起こりうる
→『**こ5年内にはこの施策を実施すべき**』

「仮想将来世代」の議論の特徴

- **現世代のグループは課題解決型**
 - ✓ 現在の課題や、今満たされていないニーズから議論が出発、**課題克服の先に未来がある**。(例:待機児童の問題、コミュニティ・地域のつながりの劣化)
- **仮想将来世代グループの議論は独創的・長所伸長型**
 - ✓ 吹田市でサイエンスの叡智を集めた食料の自給自足→**阪大農学部**の提案
 - ✓ 矢巾水道配管の更新に関する新たな社会的評価法の発明
 - ✓ **新たな公共交通機関:ループ型のモノレールの提案**
- **仮想将来世代グループの議論は社会全体最適を考慮**
 - ✓ 「**時間のかかること、複雑なことを早い時期に実施すべき**」
 - ✓ 「**産業誘致は盛岡に任せて、矢巾は地域の強みに特化しよう**」

フューチャーデザイン討議の概念



仮想将来世代としての役割と意識変化

討議後のアンケート結果(吹田市)

【質問1】 本日のグループワークの中で、コンセプト・テーマの設定(作業①)あるいは重点領域の選択(作業②)をした際に、あなたの所属するグループの条件(「自由に議論を行うグループ」 or 「将来世代の利益を代弁して議論を行うグループ」)は、何かの影響を与えましたか? 以下から選択ください。

1 大きく与えた、2. 少し与えた、3. あまり与えてない、4. 全くあたえなかった、5. わからない



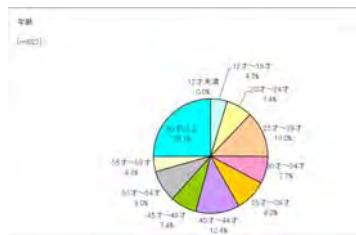
ここでは、C,Dが仮想将来世代グループ

論点：個人属性と判断傾向との関係 (全国オンライン調査)

- 目的：将来世代を代弁して現代の社会的課題等に取り組む役割を与えた場合、判断の優先順位が変化するかどうかを分析
- 実施期間：2015年03月10日～2015年03月12日
- 全国の622名から有効回答(男女比、世代バランスなど考慮)

□ 設問(全 30問):

- ✓ 個人属性(年収、年齢、子供の有無等)
- ✓ 18個の多様な政策課題に対して優先順位をつけてもらう

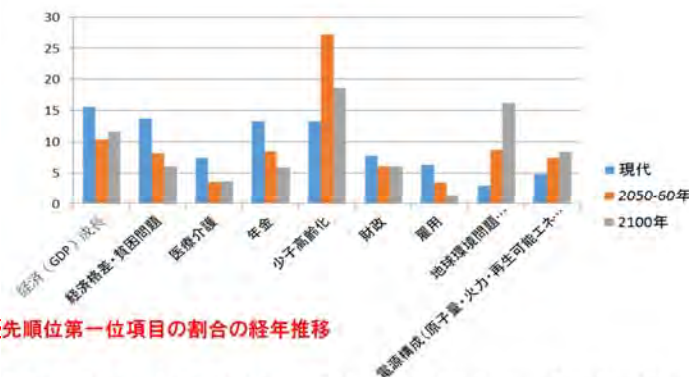


現世代、2050-60年の将来世代、2100年の将来世代の、それぞれの立場に立って政策優先順位を問う設問

13

出典：Hara, K., et al(2015) Will people's perceptions and judgements change in view of future generations? - Evidence from a questionnaire survey, Proceedings of EcoDesign 2015

想定世代に応じて優先順位が変化



優先順位第一位項目の割合の経年推移

- ✓ 全体的に現代人の立場からは、**経済成長、格差問題、年金問題**がプライオリティ高い
- ✓ 2050～60年、2100年の立場からは、これらの課題の優先順位は下がり**少子高齢化、地球環境問題**の重要性が増す

14

属性と判断傾向との関係

- 全体傾向として、**想定する世代に応じて優先順位が変化**。喫緊の課題(例：経済成長、格差等)から、時間軸が長く次世代に影響のある課題(例：地球温暖化等)にシフトする傾向
- 望ましい条件設定の下で明確に役割を与えることで、**将来世代に資する判断・意思決定**を実践できる可能性大
- 「年齢・年収・子供の有無・家族構成」など**個人属性**や**個人の置かれている立場**と、判断傾向との間に関連性が存在している可能性
 - ✓ 例：子供を持つ親は、想定世代に関係なく温暖化問題等の政策を重視する傾向

15

新しい参加型意思決定の仕組みへ

フューチャーデザイン 方式 では・・・

- 多様な世代の住民が参加し、**将来世代に資する地域のビジョン**や**施策案**を立案
- 専門家、行政関係者は市民のサポートへ
 - ✓ 適切な情報の提示(将来シナリオ等)
 - ✓ 住民による論理的・体系的議論の導出のサポート
- 自治体の**将来課**、政府の**将来省**では、これらの案を踏まえつつ、将来世代にも利益のある政策を立案へ

フューチャーデザイン討議法と社会的装置(制度・しくみ)の実装・普及がカギ

16

理論・実践から社会実装へ

理論・方法論の基盤 討議・意思決定の実践（自治体等）



実装へ

自治体における社会実装基盤



- 討議法の普及
- 社会的装置の実装
 - ✓ 将来課・将来省
 - ✓ 公共人材育成
 - ✓ NPO（例：矢巾 将来サロン）
- 政策立案の実践
- 自治体間広域連携

17

進行中の研究・実践

- 住民参加型のフューチャーデザイン実践と意思決定
例：フューチャーデザインによる「地域創成」プラン提示（矢巾町）
- 関西圏ほかの広域自治体による社会的装置（将来課、住民の参加の仕方など）や人材育成のための研究会開始、行政の広域連携による連携・政策デザインにおける協力（吹田市、高槻市、茨木市、木津川市など）
- フューチャーデザインの政策的な応用（例：フューチャーアセスメント）

18

これまでの知見と今後の課題

- 人は役割を与えられ、条件が整うことで、将来を慮って判断・意思決定に臨む能力を持ちうる（ラーニングプロセス）
⇒ 近視性を乗り越えた思考・判断
- 仮想将来世代と現世代は思考のパターンや時間軸、優先順位が異なる（例「課題解決型思考」VS「長所伸長型」）
- どのような条件下で「仮想将来世代」がどのような判断を示しうるか、様々な条件下での変化値を整理
 - ✓ 提示すべき情報は？ 情報提示の仕方は？
- 住民による立案・意思決定をサポートするツールの実装
 - ✓ 「持続可能社会シナリオシミュレータ」（Umeda et al）等の応用などを想定 ⇒ 論理的に施策案を導く
- 将来世代に向けた思考を測る評価基準の検討

19

まとめにかえて

- 仮想将来世代という新しい“ステークホルダー”の創出
- 市場・間接民主制を補完する新たな社会技術としての「フューチャーデザイン」
- 持続可能社会の形成に向けた意思決定・変革の切り札になりうるとともに、新しいサイエンスのフロンティア



20

ご清聴ありがとうございました。

謝辞： 以下のサポートによりプロジェクトを実施しています。

科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域 平成27年度採択プロジェクト企画調査「仮想将来世代との共創によるビジョン設計・合意形成手法の検討」(代表・原圭史郎)

科学技術振興機構(JST)フューチャー・アース構想の推進事業「フューチャー・アース:課題解決に向けたトランスディシプリナリー研究の可能性調査」平成27年度採択課題「持続可能な社会へのトランスフォーメーションを可能にする社会制度の変革と設計」(代表・西條辰義)